

柏原市立歴史資料館

平成26年度夏季企画展

7/5(土) - 8/31(日)

絵画土器に込められたのは、

“弥生”への「思い」か、

それとも“縄文”の「誇り」か。

縄文から 弥生へ

船橋遺跡の縄文絵画土器が語るもの

文化財講演会

午後 1:00 ~ 4:00
定員 90 名
申込み不要、参加費無料

7/12(土)

大野 薫氏 (大阪府立狭山池博物館 学芸課長)
「縄文弥生変革期の集落と墓地」

森岡秀人氏 (奈良県立橿原考古学研究所 共同研究員
桜井市縄向学研究中心 共同研究員)

「紀元前の遭遇!! 縄文人と弥生人
— 初期農耕社会誕生の謎に迫る —」

7/26(土)

秋山浩三氏 (大阪府立弥生文化博物館 副館長)
「土偶と石棒からみた弥生の始まり」

藤田三郎氏 (田原本町教育委員会 文化財保存課長)
「絵画土器が語る精神世界」

市民歴史大学

テーマ『縄文から弥生へ』

午後 1:30 ~ 3:00
定員 100 名
申込み不要、参加費無料

8/9(土)

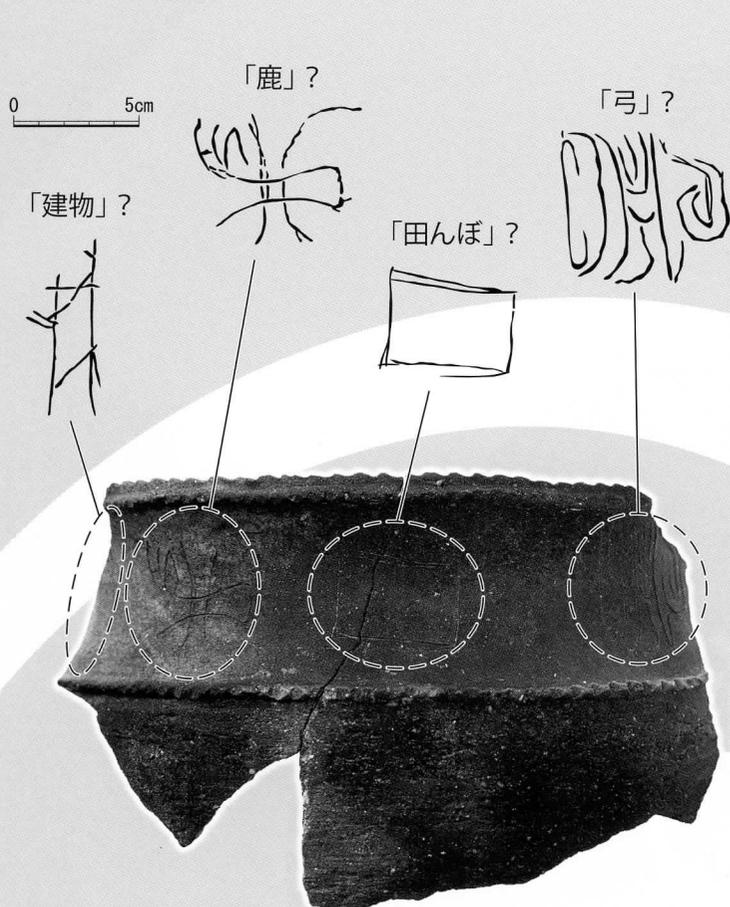
矢野健一氏 (立命館大学 教授)
「縄文人はなぜ稲作を
始めたのか?」

8/30(土)

小林青樹氏 (国学院大学栃木短期大学 教授)
「船橋遺跡の
縄文絵画土器が語るもの」

入館無料

9:30 ~ 16:30 月曜休館 大阪府柏原市高井田 1598-1 ☎072-976-3430



縄文絵画土器—船橋遺跡

平成5年7月、柏原市の大和川の河川敷^{ふな}（船橋遺跡）から、不思議な絵が描かれた土器が見つかりました。縄文時代の終わり頃（約2800年前）の土器で、4つの絵が横に並んでいます（左写真）。この頃の絵画土器は、全国的にみても数が少なく、複数の絵がある例は、大変貴重です。

これらの絵について、「建物」や「田んぼ」ともいわれていますが、何をモデルにしたのかよくわかっていません。

縄文時代が終わりに近づき、弥生時代が始まろうとしていた時期に作られたこの絵画土器には、どんな思いが込められているのでしょうか。当時の柏原の様子や、船橋遺跡、周辺の遺跡の資料を手掛かりに考えてみたいと思います。

なお、この土器は、平成26年5月1日、柏原市の文化財に指定されました。

<主な展示品>

- 船橋遺跡—縄文絵画土器、縄文土器、土偶、御物石器
- 大県遺跡—縄文線刻土器、縄文土器、石刀
- 長原遺跡—縄文土器、浮線文土器、土偶、石棒
- 鬼塚遺跡—土偶
- 清水風遺跡—弥生絵画土器
- 久宝寺遺跡—縄文絵画土器
- 宮ノ下遺跡—縄文絵画土器、土偶
- 田井中遺跡—縄文線刻土器、浮線文土器
- 池島・福万寺遺跡—浮線文土器
- 奈良市大森町出土品—御物石器（レプリカ） ほか



土偶—船橋遺跡
(大阪府立弥生文化博物館所蔵)



ぎよぶつせっき
御物石器—船橋遺跡
(大阪府立弥生文化博物館所蔵)



柏原市立歴史資料館

大阪府柏原市高井田 1598-1
☎072-976-3430

9:30～16:30 月曜休館
(月曜が祝日の場合は開館)

入館無料

JR 関西本線 高井田駅から徒歩 5分
近鉄大阪線 河内国分駅から徒歩 15分